

事例3 指導と評価の一体化を図る指導の事例

- 学年 第4学年
- 単元名 みんなでちょうせん！ ロングスロー（投の運動）
- 事例のポイント
 - ①児童の実態を十分に把握した上で、指導内容や提示する課題を明確にする。
 - ②それぞれの運動場面において、児童にとって分かりやすく明確な達成基準を設ける。
 - ③友達と関わり合いながら進んで運動に取り組めるように、集団達成型の教材を適用する。
 - ④4時間の小単元であることを考慮し、指導内容と評価項目をより一層精選する。
 - ⑤自己や友達のよい動きに気付けるように、ICT端末を活用する。

1 単元名 みんなでちょうせん！ ロングスロー（投の運動）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

友達と競い合う楽しさや思い切り投げる心地よさを味わうことができるとともに、体を巧みに操作しながら投げる動きを身に付けることを含んでいる運動である。

(2) 児童から見た特性

投の運動の楽しさや喜びを感じる要因	投の運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り投げることで心地よさが味わえたとき。 ・友達と励まし合ったり認め合ったりしながら運動することができたとき。 ・投げ方が分かって、遠くまで投げられるようになったとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投げ方が分からず、遠くまで投げられないとき。 ・必要感を感じられないまま反復練習を行うとき。 ・投げる運動に楽しさを見出せないとき。

3 児童の実態（略）

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

投げる経験が少ないという児童の実態を踏まえ、本単元においては思い切り投げる機会を十分に確保していく。その中で、「投げる手と反対の足を踏み出すこと」と「腕を振り切って投げること」の二つの投動作を確実に身に付けられるように指導に当たる。

具体的な指導の1点目として、毎回投げる際に「開いて（両手を開く）・コツン（投げる方の腕を曲げて頭に付ける）・せーので（投げる方の手と同じ足に体重をかける）・ビュン！（反対の足を踏み出し、投げる方の肩の後ろが相手に見えるように腕を振り切る）」という合言葉を用いる。こうすることで、投動作の基礎を常に確認できるようにしていく。



2点目はすべての運動の場において、足元に直線を引き、常にその線を跨ぎ越して投動作を行うようにする。遠くに投げるためには、体重の移動が重要となる。「ラインを跨ぎ越しながら投げる」ことを繰り返すことで、投げる手と反対の足を踏み出して投げることができ、自然に体重移動の感覚を身に付けられるようにしていく。

3点目は以下の表のように、4種類の運動で構成された「投力アップ運動」を毎時間継続する。その際、単なる繰り返しの練習にならないよう、それぞれの運動において意識するポイントを明確にする。なお、「投射角」や「手首のスナップ」は、本単元においては結果として身に付いていく動作として扱い、具体的な指導は高学年で行う。

運動名	児童が意識すること 【】内は身に付けられる投動作
①全力的当て	線を跨いで足を踏み出し、思い切り投げる。【体重移動・腕の振り切り・投射角】
②どすこいバウンド投げ	なるべく高くボールをバウンドさせる。【体重移動・腕の振り切り】
③パラシュート投げ	パラシュートが綺麗に開くように高く投げる。【体重移動・腕の振り切り・投射角】
④くるくるボール投げ	くるくるボールが綺麗に縦回転するように投げる。【体重移動・腕の振り切り・手首のスナップ】

(2) 思考力、判断力、表現力等

本単元では、学習したことを踏まえ、友達の動きを見て課題に気づき、それを伝えることができる児童の育成を目指していく。そのために、児童にとって明確な「見る視点」を与えるようにしていく。本単元で習得を目指す二つの投動作のうち、「投げる手と反対の足を踏み出すこと」については、しっかり足を踏み出し、その足に体重が乗っているか（後ろ足が投げた後浮いているか）を見る視点とする。また、「腕を振り切って投げること」については、投げた後、投げた手の方の肩の後ろが正面にいる人に見えているかを見る視点とする。このように見る視点を明確にすることで、児童は友達に何を伝えたらよいのかが考えやすくなる。また、これらのポイントについては、互いに見合っただけでなく、自身の目でも確かめられるように、ICT端末の動画遅延再生機能を活用していく。



こういった活動を通して、自己の課題を把握した上で、第4時には課題解決学習に取り組めるように単元計画を作成した。ここでは、これまでに学習した「投げる手と反対の足を踏み出すこと」と「腕を振り切って投げること」のどちらかの課題を選択する。そして、それを解決していくために「投力アップ運動」から運動を選択して取り組めるようにしていく。

(3) 学びに向かう力、人間性等

本単元において重要なことは、思い切り投げる心地よさを感じ、投げる楽しさを味わうことである。そのため、授業の導入において、ゲーム性のある活動「チーム対抗ボール投げゲーム」を取り入れ、楽しみながら思い切りたくさん投げる機会を確保する。また、集団達成的な課題「ロングスローチャレンジ」を行い、学級の合計記録を前時と比較することで、個の記録を比較し合うのではなく、互いの伸びを認め合える授業を展開していく。

児童の意欲を持続していくためには、教師の言葉がけや友達同士の励まし合い、認め合いが重要である。そこで、教師が具体的に児童の動きを肯定する声をかけたり、毎時間の振り返りの際に友達のよさを見付けられていた児童を称賛したりしていく。そうすることにより、児童同士にもよい言葉のかけ合いが生まれると考える。

5 単元の目標

- (1) 足を踏み出し、腕を振り切ることで遠くへボールを投げることができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに考えたことを友達に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 勝敗を受け入れたり、安全に気を付け誰とでも仲よく運動をしたりしながら、運動に進んで取り組むことができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①利き手と反対の足を踏み出して、ボールを投げることができる。 ②腕を素早く振り切って、ボールを投げることができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動の場を選んだり競争の仕方を工夫したりしている。	①投の運動に進んで取り組もうとするとともに、きまりを守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。

※各観点（上記及び上記以外の評価項目）を適切な機会に評価していくが、小単元であることを考慮し、上表以外の評価項目に関しては、同領域の他の内容で記録に残していく。

7 単元の計画

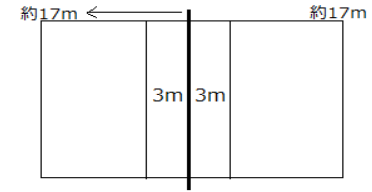
- (1) 領域の取り上げ方（略）
- (2) 領域の内容と目指す動き

学年	内容	目指す動き
2	投の運動遊び	横向きで斜め上に思い切り投げること。
4	投の運動	足を踏み出し、腕を振り切って遠くに投げること。
6	投の運動	足を強く踏み込み、手首のスナップを使って遠くに投げること。

(3) 指導と評価の計画（4時間扱い） 本時は○印 3 / 4時

時間	1	2	③	4														
ねらい	学習の見通しをもち、きまりを守って友達と仲良く運動しよう。	利き手と反対の足を踏み出して思い切り遠くへ投げよう。	素早く腕を振って思い切り遠くへ投げよう。	課題を達成するために練習場所を選び、友達と動きのよさを見付け合おう。														
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方 ・約束 準備、片付けの方法 感覚づくりの運動の行い方 学習カードの記入について 	<ul style="list-style-type: none"> 体を横に向けること 利き手と反対足を踏み出して投げること（体重移動） 	<ul style="list-style-type: none"> 構えたときの肘の高さ 腕を振り切ること（手首のスナップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の決定と練習の場の選択 友達の動きのよさの発見と伝え合い 														
学習過程	1 集合、整列、服装点検、健康観察、挨拶をする。		2 準備運動をする。															
	3 単元の学習と本時のねらいを確認する。	3 「チーム対抗ボール投げゲーム」をする。																
	4 学習の仕方や進め方に見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 兄弟チームが仲間となり8人対8人で行う。（1ゲーム1分） コート中央に高さ約2mのゴム紐を張り、それを挟んで両チームで紅白玉を投げ合う。 投げるときはゴムから3mのラインを跨いで投げる。 ゴムから約17mのラインを越えたら無条件でポイントに加わる。 終了時に相手のコートに入っている玉の数が自チームのポイントになる。 																
	5 試しの運動をする。	4 本時のねらいを確認する。																
6 片付けをする。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>運動名</th> <th>身に付けさせたい力</th> <th>児童が意識すること</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①全力的当て</td> <td>思い切り投げること</td> <td>線を跨いで足を踏み出し、思い切り投げる</td> </tr> <tr> <td>②どすこいバウンド投げ</td> <td>腕を振り切る動作・体重の移動</td> <td>なるべく高くボールをバウンドさせる</td> </tr> <tr> <td>③パラシュート投げ</td> <td>大きな投射角</td> <td>パラシュートが綺麗に開くように高く投げる</td> </tr> <tr> <td>④くるくるボール投げ</td> <td>手首のスナップ</td> <td>くるくるボールが綺麗に縦回転するように投げる</td> </tr> </tbody> </table>			運動名	身に付けさせたい力	児童が意識すること	①全力的当て	思い切り投げること	線を跨いで足を踏み出し、思い切り投げる	②どすこいバウンド投げ	腕を振り切る動作・体重の移動	なるべく高くボールをバウンドさせる	③パラシュート投げ	大きな投射角	パラシュートが綺麗に開くように高く投げる	④くるくるボール投げ	手首のスナップ	くるくるボールが綺麗に縦回転するように投げる
運動名	身に付けさせたい力	児童が意識すること																
①全力的当て	思い切り投げること	線を跨いで足を踏み出し、思い切り投げる																
②どすこいバウンド投げ	腕を振り切る動作・体重の移動	なるべく高くボールをバウンドさせる																
③パラシュート投げ	大きな投射角	パラシュートが綺麗に開くように高く投げる																
④くるくるボール投げ	手首のスナップ	くるくるボールが綺麗に縦回転するように投げる																
7 本時の振り返りとまとめをする。	5 投力アップ運動をする。（4種類のローテーション運動）※第4時は課題別																	
8 整理運動、挨拶をする。	6 「ロングスローチャレンジ」をする。																	
	7 後片付けをする。 8 本時の振り返りとまとめをする。 9 整理運動、挨拶をする。																	
評価計画	知・技	①	②															
	思・判・表			①														
	態	①																
	方法	観察	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード													
	場面	5	5, 6	5, 6	5													

事例のポイント①
児童の実態を十分に把握して、ねらいや指導内容を設定する。



事例のポイント⑤
ICT端末を活用し、自己の動きを自身の目で確かめられるようにする。

事例のポイント②
児童にとって分かりやすい達成基準を設ける。

事例のポイント③
集団達成型の教材を適用する。

事例のポイント④
指導と評価の一体化を図るため、指導内容と評価機会をより一層精選する。なお、本表に記していない評価項目については、同領域の他の内容で記録に残していく。

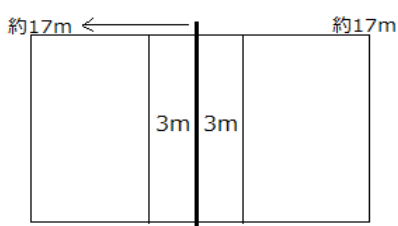

8 本時の学習指導（本時 3 / 4 時）




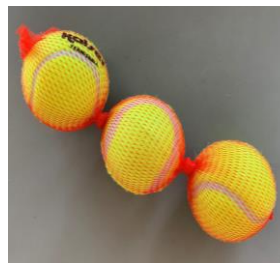
(1) ねらい

- ・腕を素早く振り切って、ボールを投げることができるようにする。 〈知識及び技能〉

(2) 準備（略）

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 5分	1 集合、整列、服装点検、健康観察、挨拶をする。 2 準備運動をする。	○素早く集合できるように言葉がけをし、元気な挨拶で気持ちよく学習が始められるようにする。 ○児童の健康状態を確認し、安全のために身支度を整えさせる。 ○各運動を正確に行えるように言葉がけをし、しっかりできている児童を称賛する。手首や肩回りを入念に行うようにする。
展 開	3 「チーム対抗ボール投げゲーム」をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">P134 指導計画の作成の留意事項(1)</div>  	○投力が低い児童でも、相手のコートに投げ入れられる距離から投げるように規則を設定する。 ○遠くへ投げる意識がもてるように、遠くへ投げると自チームが有利になるような規則を適用する。 ○必ずゴムを越えるような軌道で投げるように声をかけることで、速い球が友達に直接当たらないように配慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈チーム対抗ボール投げゲームの規則〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟チームが仲間となり 8 人対 8 人で行う。（1 ゲーム 1 分） ・コート中央に高さ約 2 m のゴム紐を張り、それを挟んで両チームで紅白玉を投げ合う。 ・投げるときはゴムから 3 m のラインを跨いで投げる。 ・ゴムから約 17 m のラインを越えたら無条件でポイントに加わる。 ・終了時に相手のコートに入っている玉の数が自チームのポイントになる。 </div>
35分	4 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">すばやくうでをふって、思い切り遠くへ投げよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント① 児童の実態を十分に把握して、ねらいや指導内容を設定する。また、児童にとって分かりやすい言葉で提示する。</p> </div>	○前時の児童の学習カードから、より遠くにボールを投げるために、「肘の高さ」と「素早く腕を振り切る」ことを本時の共通課題とする。また、「腕を振り切ること」についての見る視点として、「投げた手の肩の後ろが正面から見えるか」を挙げ、全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント⑤ ICT端末を活用し、自己の動きを自身の目で確かめたり、友達と互いの動きを確認し合ったりできるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">編 P135 指導計画作成の留意事項(2)</div>
	5 投力アップ運動をする。 (4 種類のローテーション運動) ①全力的当て ②どすこいバウンド投げ ③パラシュート投げ ④くるくるボール投げ	○それぞれの運動について、意識するポイントをグループで確認し合い、互いに見合いながら運動するように声をかける。 ○投げる前に合図をすることで、場の安全に関する意識をもたせる。 ○ICT端末の動画遅延再生機能を活用し、自己の動きを確認できるようにする。

全力的当て	どすこいバウンド投げ	パラシュート投げ	くるくるボール投げ
			
玉入れの玉を、防球ネットに取り付けたケンステップに向かって思い切り投げる。その際、手前に引いた白線を跨いで、体重移動を意識して投げるように指導する。	ティーボール用の柔らかいボールを地面にたたきつけ、高くバウンドさせることを意識する。その際、白線を跨いで、体重移動を意識して投げるように指導する。児童の目標となるようにバックネットに高さを変えたテープを取り付ける。	野球のバッティング練習ボールにパラシュートを取り付けた教具を用意し、パラシュートがきれいに開くように思い切り投げる。その際、投げた手の方の肩の後ろが正面にいる人に見えるか確認し合うように指導する。	みかんネットにテニスボールを3個入れた教具を用意し、回転しながら跳ぶように思い切り投げる。その際、投げた手の方の肩の後ろが正面にいる人に見えるか確認し合うように指導する。

事例のポイント②
「何がどうなればよいのか」という、児童にとって分かりやすい達成基準を設けることで、互いに見合いながら運動し、課題を見付けられるようにしていく。

6 「ロングスローチャレンジ」をする。
(集団達成型)

- ・グループ(4~5名)で行う。
- ・以下の手順で行う。
- ①開始線から第1投者が投げる。
- ②第1投者のボールの落下点から第2投者が投げる。
- ③以降、同じように第5投者までが投げる。
- ④第5投者のボールの落下点が、そのチームの記録となる。
- ※グループの目標値や学級の目標値を設定する。

- これまでに学習したポイントを意識しながら、一人一投集中して投げるように声をかける。
- 励ましやアドバイスの声をかけ合っているチームを称賛し、温かい雰囲気の中で、互いに高め合えるようにする。
- 投げる前に合図をすることで、場の安全を確認する意識をもたせる。

◆腕を素早く振り切って、ボールを投げるができる。
(観察・学習カード)【知識・技能】

事例のポイント③
投の運動は、個の運動の特性が強いため、友達と関わり合いながら運動に取り組み、伸びを実感し合える教材(集団達成型の教材)を意図的に設定していく。

- △努力を要すると判断される状況(C)の児童への指導の手立て
- ・肘が下がってしまう児童に対しては、児童の真横に立ち、肘を下から少し支えることで肘の高さを意識できるようにする。
- ◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿
- ・肘を肩の高さから素早く振り切り、手首にスナップを利かせてボールを投げるができる。

整理
5
分

- 7 後片付けをする。
- 8 本時の振り返りとまとめを行う。
- 9 整理運動、挨拶をする。

- 役割分担を明確にすることで、安全に気を付けながら、協力して後片付けを行わせる。
 - 学習カードに記入し、本時の活動を振り返る。その際、ねらいに沿った振り返りが行えるよう声をかける。
- | | |
|---|----------------------------|
| 今日のめあて すばやくうでをふって
【第3時】 思いきり遠くへ投げよう! | |
| 今日の学習をふりかえって | |
| ①すばやくうでがふられた | ◎ ○ △ |
| ②思いきり投げられた | ◎ ○ △ |
| ③遠くへ投げられた | ◎ ○ △ |
| 今日の発見!(ともだちのよいところ) | さん <u>すばやくうでをふって</u> とはばいて |
- 教師の評価や称賛を加え、児童の意欲を高める。また、児童の考えを全体に広め、次時につなげる。
 - 手首や肩回りを入念に行うようにする。
 - 落ち着いて学習を終われるように声をかける。